

大正三年 甲寅（一九一四年） 閏年 花蹊七十五歳

〔大正三年当用日記〕（No. 23）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『大正／三年／当用日記』。大正二年十月五日印刷、大正二年十月八日発行。編輯兼発行者、東京市日本橋区本町三丁目八番地 大橋新太郎。印刷者、東京市小石川区久堅町百八番地 高橋季吉。印刷所、東京市小石川区久堅町百八番地 博文館印刷所。発行所、東京市日本橋区本町三丁目 博文館。洋紙洋装。深緑色総クロス表紙空押し模様、背金箔押し。縦十九・四cm×横十二・九cm。茶色の細縦縞に波頭繫模様（なみがしらもよう）入り見返し。扉一丁赤黒二色刷、皇室関係諸表二丁赤黒二色刷、日記本欄1～378頁、「補遺」379～400頁、「金銭出納録」401～432頁青一色刷り、「住所人名録」433～450頁、附録諸表・諸規則類451～528頁、奥附一頁分、広告二～八頁。

記述は、墨筆および鉛筆の交じり書き。巻末「日記補遺」欄に記された寄付金控えは、「（大正三年会計）」として、日記本文の後に置いた。

挿入紙一葉あり。日記欄八月二十三日～二十四の間に、『国民新聞』大正三年八月廿三日第二号外挿入。縦二十・三cm×横二十六・九cm。内容から、八月二十三日の後に挿入しておく。

大正四年 乙卯（一九一五年） 花蹊七十六歳

〔大正四年当用日記〕（No. 24）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『実用日記 大正四年』。大正三年九月廿九日印刷、大正三年十月二日発行。編輯兼発行者、東京市日本橋区本町三丁目十七番地 金港堂書籍株式会社。代表者、原亮一郎。印刷者、東京市京橋区築地南小田原町二丁目九番地 中野鉄太郎。印刷所、東京市芝区愛宕町三丁目二番地 東洋印刷株式会社。発売所、東京市日本橋区本町三丁目 金港堂書籍株式会社。定価、金卅二銭。洋紙洋装。青磁色総クロス表紙空押し・金箔・胡粉差し、背金箔押し・胡粉差し。縦十五・四cm×横十一cm。玉子色表見返しに行事および日曜表を印刷。見返し遊びを短く残し、それを足として標題一丁を貼り込み、扉とする。扉表は緑紫二色刷、扉裏は赤一色刷。続いて赤一色刷皇室関係年表八頁分（七、八頁頁付なし）を貼り込む。一～六頁および頁付けの落ちている一丁分（全八頁）までが赤一色刷。日記本欄1～三百七十八頁、「金銭支出簿」三七九～四〇八頁、「金銭収入簿」四〇九～四一六頁、「收支一覽表」四一七～四二九頁、「貸借表」四三〇～四三五、「家族名簿」四三六～四三七頁、「人名簿」四三八～四四六頁、附録諸表四四七～五〇四頁、奥附一頁分、広告三頁分。裏見返しに『日本全国鉄道航路案内地図』挿入用紙貼り込み帯のあり。地図本体は残されていない。記述は、墨筆、朱筆また鉛筆の交じり書き。扉部分に「不言菴」と記す。また一月冒頭に昭憲皇太后薨去の諒闇のため正月旅行をする旨の記述あり。巻末「貸借表」欄に記された支出控えは、「（大正四年会計）」として、日記本文の後に置いた。

大正五年 丙申（一九一六年） 閏年 花蹊七十七歳

〔大正五年当用日記〕（No. 25）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『大正／五年／婦人日記』。大正四年十月十日印刷、大正四年十月十五日発行。著作者、発行者、印刷者所番地、印刷所、発行所は、大正七年に同じ。定価、金三十八銭。洋紙洋装。濃紫色総クロス表紙空押し、背金箔押し。縦十九・四 cm×横十三 cm。鳥の子色表見返しに東京市案内図を印刷。扉一丁茶一色刷。目次および皇室関係諸表三丁茶一色刷。日記本欄、二～二四二頁。「附録」二四四～三〇九頁（二四三頁頁付なし）。奥附三一〇頁（一頁頁付なし）。書籍総目録一～七頁。広告三十七頁分。記述は、墨筆、朱筆また鉛筆の交じり書き。巻末諸欄に記された和歌の草稿は、一括して本文の後に置いた。挿入紙五点あり。共に巻末に収めた。

（挿入紙 1） 祝儀折り和紙一枚、墨筆。花蹊が周魚 大口鯛二に和歌の添削を頼んだもの。「みめくみの」以下周魚の評語は朱筆。昭和五十六年十一月には存在したが、現在は所在不明。焼き付け写真により翻字を行った。

（挿入紙 2） 縦三十一・八 cm×横四十・八 cmの和紙を祝儀折り、墨筆。表は、花蹊の喜寿の祝いに、晴らしに招かれた令嬢の下書き。大正五年七月二十三日の執筆力。裏は、教育論の下書き。内容により大正七年から移した。

（挿入紙 3） 謝金受取証下書き。和紙墨筆、縦二十七・六 cm×横四十・一 cm。

（挿入紙 4） 跡見女学校用箋に記された人生訓の下書き。和紙墨筆、縦二十三・五 cm×横十五・九 cm。

（挿入紙 5） 花蹊が受けた精神療法の施術者武田信達の広告文。浅黄色洋紙、活版刷り。縦十五 cm×横二十四・四 cm。

大正六年 丁巳（一九一七年） 花蹊七十八歳

〔大正六年当用日記〕（No. 26）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『大正／六年／当用日記』。大正五年十月十二日印刷、大正五年十月十五日発行。四版。編輯兼発行者、東京市日本橋区本町三丁目八番地 大橋新太郎。印刷者、東京市小石川区久堅町百〇八番地 高橋季吉。印刷所、東京市小石川区久堅町百〇八番地 博文館印刷所。発行所、東京市日本橋区本町三丁目 博文館。洋紙洋装。海松色総クロス表紙空押し模様、背金箔押し。縦二十二・七 cm×横十五・二 cm。表見返し、鳥の子色地に日本・支那地図を緑色で印刷。扉一丁赤黒二色刷。皇室関係諸表二丁赤黒二色刷。日記本欄、始一丁分頁付け無し、3～378頁（1、2頁頁付けなし）。「補遺」379～400頁。「金銭出納録」401～

432頁青一色刷り。「住所人名録」433〜440頁。附録2〜52頁（1頁頁付けなし）。奥附一頁分。広告十一頁分。裏見返し、鳥の子色紙に世界地図を緑色で印刷。記述は、墨筆および鉛筆の交じり書き。日記途中に、竹製煤模様付きの葉と薄紅梅色の吸い取り紙の挿入あり。

大正七年 戊午（一九一八年） 花蹊七十九歳

〔大正七年当用日記〕（No. 27）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『大正／七年／婦人日記』。大正六年十一月十日印刷、大正六年十一月十五日発行。著作者、実業之日本社。発行者、東京市京橋区南紺屋丁町十二番地 増田義一。印刷者、東京市京橋区西紺屋町廿七番地 佐久間衡治。印刷所、東京市京橋区西紺屋町廿七番地 株式会社秀英舎。発行所、東京市京橋区南紺屋町十二番地 実業之日本社。定価、四十五銭。洋紙洋装。薔薇色総クロス表紙空押し、背金箔押し。縦十九・四cm×横十二・八cm。鳥の子色表見返しに皇室諸表および年代表を赤一色で印刷。扉一丁赤一色刷。日記本欄2〜242頁（1頁頁付けなし）。「附録」244〜300頁（243頁分頁付け無し）。奥附一頁分。書籍総目録七頁分。裏見返し遊び裏に赤一色刷で広告一頁分。裏見返しに赤一色刷で、「吉凶便覧」。記述は、墨筆および鉛筆の交じり書き。日記は、冒頭の十二日間記述なく、一月冒頭に、年忌日の覚えを記す。挿入紙あり。巻末に置いた。

（挿入紙）婦人画報製の跡見用箋に記された覚え書き類。洋紙、縦二十二cm×横十四・四cm、墨筆および鉛筆の交じり書き。

大正八年 己未（一九一九年） 花蹊八十歳

〔大正八年当用日記〕（No. 28）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『大正／八年／当用日記』。大正七年十月十二日印刷、大正七年十月十五日発行。九版。編輯兼発行者、東京市日本橋区本町三丁目八番地 大橋新太郎。印刷者、東京市小石川区久堅町百〇八番地 高橋季吉。印刷所、東京市小石川区久堅町百〇八番地 博文館印刷所。発行所、東京市日本橋区本町三丁目 博文館。正価、金七十五銭。洋紙洋装。山葵色総クロス表紙空押し模様、背金箔押し。カバー残存。縦十八・九cm×横十二・七cm。表見返し、鳥の子色地に日本地図を緑色で印刷。扉一丁赤黒二色刷。皇室関係諸表四丁赤黒二色刷。日記本欄3〜378頁（1、2頁頁付けなし）。「補遺」379〜400頁。「金銭出納録」401〜432頁青一色刷り。「住所人名録」433〜444頁。附録2〜48頁（1頁頁付けなし）。奥附一頁分。広告十一頁分。裏見返し、鳥の子色紙に世界地図を緑色で印刷。

記述は、墨筆および鉛筆の交じり書き。

大正九年 庚申（一九二〇年） 閏年 花蹊八十一歳

〔大正九年当用日記〕（No. 29）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『大正／九年／家庭日記』。大正八年十月一日印刷、大正七年十月四日発行。三版。編輯兼発行者、東京市日本橋区本石町三丁目十六番地 株式会社博文館 代表者 取締役社長大橋新太郎。印刷者、東京市牛込区榎木町七番地 渡辺八太郎。印刷所、東京市牛込区榎木町七番地 日清印刷株式会社。発行所、東京市日本橋区本石町三丁目十六番地 株式会社博文館。正価、金八十五銭。洋紙洋装。藍色総クロス表紙空押し模様、背金箔押し。縦十九・一cm×横十三cm。鳥の子色見返しに松鶴瑞雲を茶色で白抜き印刷。扉一丁赤緑二色刷。皇室関係諸表四丁赤黒二色刷。日記本欄三〜二〇〇頁（一、二頁頁付けなし）。「家計簿」二〜二六頁（一頁頁付けなし）。「家庭録」二八〜一一二頁（二七頁頁付けなし）。「家庭節用十二ヶ月」二〜五六頁（一頁頁付けなし）。附録一〜二四頁。奥附一頁分。広告七頁分。記述は、墨筆および鉛筆の交じり書き。扉裏に「日華籠」と記す。

大正十年 辛酉（一九二二年） 花蹊八十二歳

〔大正十年当用日記〕（No. 30）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『大正／十年／当用日記』。大正九年十月一日印刷、大正九年十月四日発行。再版。編輯兼発行者、東京市日本橋区本石町三丁目十六番地 株式会社博文館 代表者 取締役社長大橋新一。印刷者、東京市小石川区久堅町百人番地 吉岡泰次郎。印刷所、東京市小石川区久堅町百人番地 株式会社博文館印刷所。発行所、東京市日本橋区本石町三丁目 株式会社博文館。正価、金卅円廿銭。洋紙洋装。海松色総クロス表紙空押し模様、背金箔押し。縦十九・三cm×横十二・八cm。カバー付き。鳥の子色見返しに花器に花の模様を茶色で印刷。扉一丁赤黒二色刷。皇室関係諸表三丁赤黒二色刷。日記本欄三〜378頁（1、2頁頁付けなし）。1頁目のみ赤黒二色刷。〔補遺〕 379〜386頁。〔金銭出納録〕 387〜418頁青一色刷り。〔住所人名録〕 419〜430頁。附録2〜52頁（1頁頁付けなし）。奥附一頁分。広告七頁分。記述は、墨筆、朱筆また鉛筆の交じり書き。カバーに、「安祥堂主人」と記す。巻末「日記補遺」欄に記された車出しの控えは、「（大正十年会計）」として、末尾に置いた。

大正十一年 壬戌（一九二二年） 花蹊八十三歳

〔大正十一年当用日記〕（No. 31）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『大正／十一年／当用日記』。大正十年十月一日印刷、大正十年十月四日発行。二版。編輯兼発行者、東京市日本橋区本石町三丁目十六番地 株式会社博文館 右代表者取締役社長大橋進一。印刷者、東京市小石川区久堅町百八番地 吉岡泰次郎。印刷所、東京市小石川区久堅町百八番地 株式会社博文館印刷所。発行所、東京市日本橋区本石町三丁目 株式会社博文館。正価、金壹円廿五銭。洋紙洋装。鉄色クロス表紙空押し模様、背革金箔押し。縦十九・三cm×横十三cm。鳥の子色見返しに花模様を茶色で印刷。扉一丁赤黒二色刷。皇室関係諸表四丁赤黒二色刷。日記本欄3～378頁（1、2頁頁付けなし）。「補遺」379～384頁。「金銭出納録」385～416頁青一色刷り。「住所人名録」417～428頁。附録2～54頁（1頁頁付けなし）。奥附一頁分。広告五頁分。

記述は、墨筆、朱筆また鉛筆の交じり書き。見返しに、「不言菴」と記す。巻末「住所人名録」欄に記された車出しの控えは、「（大正十一年会計）」として、日記本文の後に置いた。新聞記事切り抜き二点あり。まとめて、末尾に置いた。

（新聞記事切り抜き1）「秩父宮御宣賜」の記事。縦十二・二cm×横十・二cm。

（新聞記事切り抜き2）「英皇儲御退国の辞」の記事。縦八・五cm×横十一・四cm。

大正十二年 癸亥（一九二三年） 花蹊八十四歳

〔大正十二年当用日記〕（No. 32）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『大正／十二年／当用日記』（扉より推読）。大正十一年十月一日印刷、大正十一年十月四日発行。五版。編輯兼発行者、東京市日本橋区本石町三丁目十六番地 株式会社博文館 右代表者取締役社長大橋進一。印刷者、東京市小石川区久堅町百八番地 吉岡泰次郎。印刷所、東京市小石川区久堅町百八番地 株式会社博文館印刷所。発行所、東京市日本橋区本石町三丁目 株式会社博文館。正価、金壹円貳拾銭。洋紙洋装。海松色クロス表紙空押し模様、背革金箔押し。縦十九・三cm×横十三cm。鳥の子色見返しに花模様を青色で印刷。扉一丁赤黒二色刷。皇室関係諸表四丁赤黒二色刷。日記本欄3～378頁（1、2頁頁付けなし）。「補遺」379～384頁。「金銭出納録」385～416頁青一色刷り。「住所人名録」417～428頁。附録2～60頁（1頁頁付けなし）。奥附一頁分。広告七頁分。裏見返し左上部に、神田東京堂書店のシール貼付。

記述は、墨書。巻末「日記補遺」欄に記された車出しの控えおよび「住所人名録」欄に記された李子洋行の留主見舞い控えは、まとめて「（大正十二年会計）」として、日記本文の後に置いた。

挿入紙あり。交友に関する語を記す。鉛筆書き、縦十六・五cm×横十一・四cm。末尾に置いた。

大正十三年 甲子（一九二四年） 閏年 花蹊八十五歳

〔大正十三年当用日記〕（No. 33）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『紀元／十二五八四／当用日記』。大正十二年十月一日印刷、大正十二年十月四日発行。四版。編輯兼発行者、東京市日本橋区本石町三丁目十六番地 株式会社博文館 右代表者取締役社長大橋進一。印刷者、東京市小石川区久堅町百八番地 吉岡泰次郎。印刷所、東京市小石川区久堅町百八番地 株式会社博文館印刷所。発行所、東京市日本橋区本石町三丁目 株式会社博文館。正価、金九拾銭。洋紙洋装。海松色総クロス表紙空押し模様、背金箔押し。縦十九・四cm×横十三cm。鳥の子色見返しに花鳥模様を緑色で印刷。表裏見返しにカバーの端のみ糊付けされて残る。扉一丁赤黒二色刷。曆および皇室関係諸表四丁赤黒二色刷。日記本欄3～379頁（1、2頁頁付けなし）。「補遺」380～384頁。「金銭出納録」385～416頁青一色刷り。「家庭ノート」417～448頁柿一色刷り。附録「当用百科大鑑」1～88頁。奥附一頁分。広告七頁分。

記述は、墨筆および鉛筆の交じり書き。卷末の記述は、「家庭ノート」欄に記された記念日控えを本文の後に置き、次ぎに「日記補遺」欄、「重要記録」欄、「保険契約目録」欄、「重要家財品名録」欄、「旅行記録」欄、「贈答品控」欄に記された車出しの控えを一括し、「（大正十三年会計）」として、その後には置いた。

大正十四年 乙丑（一九二五年） 閏年 花蹊八十六歳

〔大正十四年当用日記〕（No. 34）に記載された内容を収める。

書誌を記す。背標題、『紀元／十二五八五／当用日記』。大正十三年十月一日印刷、大正十三年十月四日発行。初版。編輯兼発行者、東京市日本橋区本石町三丁目十六番地 株式会社博文館 右代表者取締役社長大橋進一。印刷者、東京市小石川区久堅町百八番地 吉岡泰次郎。印刷所、東京市小石川区久堅町百八番地 株式会社博文館印刷所。発行所、東京市日本橋区本石町三丁目 株式会社博文館。正価、金式円式拾銭。洋紙洋装。黒総革表紙空押し模様、背金箔押し。縦十九cm×横十二・八cm。鳥の子色見返しに蔓草半模様を緑黄二色で印刷。扉一丁赤黒二色刷。曆および皇室関係諸表四丁赤黒二色刷。日記本欄3～378頁（1、2頁頁付けなし）。「補遺」379～384頁。「金銭出納録」385～416頁青一色刷り。「家庭ノート」417～448頁柿一色刷り。附録「当用百科大鑑」1～90頁（2頁のみ写真に黄色をかける）。広告一丁分。奥附一頁分。広告五頁分。

記述は、墨筆および鉛筆の交じり書き。卷末の記述は「日記補遺」欄に記された車出しの控えを、「（大正十四年会計）」として、本文の後に置いた。次ぎに、「重要記録」欄、「保険契約目録」欄、「重要家財品名録」欄、「旅行記録」欄に記された和歌草稿を一括して置き、そ

の後に、裏見返し遊び裏面に記された素盞鳴尊に関わる言葉の控えを置いた。
なお、表見返し遊びに武田信達の運勢記述貼付。手帳一丁分を破いた洋紙片、縦十三・一
×横七・六cm。ペン書き。